

第五十九回  
帝國議會  
貴族院

# 米穀法中改正法律案特別委員會會議事速記録第二號

昭和六年三月十四日(土曜日)午前十時十二分開會

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ委員

會ヲ開會イタシマス、質疑ヲ繼續イタシマ

ス

○上山滿之進君 私ハ前回ニ帝國農會ノ調

ベト農林省ノ調ベトハ、生産費ニ關シテ著

シク相違ガアル點ニ付テ農務局長ニ御尋ヲ

致シマシタ、ソレニ付テ丁度大臣ガ御出席

デアリマスカラ、御尋ネシテ見タイト思フ

ノデアリマス、生産費、生計費ノ調査ガ出

來タ曉ニハ此二ツノ項目ガ、重要ナル資料

トシテ米價基準ヲ定メルコトニナル法律案

ニナッテ居ルノデアリマス、所ガ其調ベハマ

ダ出來テ居リマセヌケレドモ、今日現ニ發

デアリマス、是非非常ナ重大ナ問題ト私ハ

思フノデアリマス、必ズシモ帝國農會ヲ非

難スル意味デハアリマセヌケレドモ、過去

ニ於テ誠ニ其實例ガ現ハレテ居ルノデアリ

マス、前車ノ覆轍ヲ再ビシナイ爲ニ質問ヲ

シマス、過去ニ於テ帝國農會ガ米價ノ下ル

途中デ是ハ大變ダ、生産費ヲ切ルト云フコ

トハ不都合ダ、斯ウ云フコトヲ申シタヤウ

デアリマス、是ハ如何ニモ俗耳ニ入り易イ

言葉デアリ、而シテ其コトハ農家ノ利害ニ

モ非常ナ關係ヲ持ツノデアリマスカラ、農

家ハ一齊ニ之ニ賛成シタラシイノデアリマ

ス、併シ私共ノ見ル所デハ生産費ヲ切ルカ

ラト言ッテ、必ズ之ヲ買上ゲナケレバナラヌ

ト云フコトハナイ、若シ米ニ對シテ生産費

ヲ切ルカラ、買上ゲナケレバナラヌト云フ

コトデアルナラバ、工業製品ニ付テ生産費

ヲ切ル時ハドウスルノデアルカ、生産費ヲ

保障シナケレバナラヌト云フ必要ガ、米ノ

ミニ依テ存在スルト云フ理由ハナイノデア

リマス、農モ商モ工モ同ジク生産費ヲ保障

サルベキモノデアルナラバ、同ジク保障サ

レナケレバナラヌ、斯ウ云フ風ニ思フノデ

アリマス、唯、米穀法ノ發動スル時期ハ甚

シク米價ガ暴落シタナラバ買上ゲテ此生産

者ヲ保護シナケレバナラヌ、甚シク暴騰シ

タ場合ニハ之ヲ賣拂ッテ消費者ヲ保護シナ

ケレバナラヌ、甚シクト云フコトガ雙方ニ

條件ニナッテ居ル、私共ハ今日ノ農村ノ窮狀

ヲ聊カ承知シテ居リマス、又是ニ同情ハ勿

論シテ居リマス、ケレドモ農村救済米價調

節ト云フコトハ、自カラ立脚出發點ガ違フ

ノデアルト思フ、ソレニ拘ラズ會テ帝國農

會ガ生産費ヲ切ル米價ハ不都合デアル、買

ハナケレバナラヌト云フコトヲ言ッテニ對

シテ、全國ノ農家ハ蓋シニ齊ニ是ニ賛成ヲ

シタト思フノデアリマス、其爲ニ只今ハ一

一ノ場合ノ批評ヲ避ケマスケレドモ、甚ダ

適當ナラザル米ノ買上ヲ行ヒマシタ、サウ

シテ其效果ハ更ニ無カッタト云フコトハ、私

ハ事實ニ付テ證明スルコトガ出來ル、斯ウ

云フ覆轍ガアリマスカラ、斯ウ云フ覆轍ヲ

再ビサセタクナイ、帝國農會ノ人達モ無論

純眞ノ考カラサウナッテ居ルノデアリマセ

ウガ、農林省モ勿論サウデナケレバナラヌ、

何トカシテ帝國農會ヲシテ再ビ私ノ只今申

シタヤウナ批評ヲ受ケナケレバナラヌ立場

ニ置クト云フコトハ、私ハ宜シクナイ、何

トカシテ適當ナ機會ニ於テ帝國農會ト議ヲ

纏メテ、農林省ト帝國農會ガ一體ニナッテ進

ムヤウデナケレバナラヌト思フ、農林大臣

ハ監督官廳デアリマスシ、又相當ナ國庫ノ

補助モシテ居ル團體デアリマス、ソレガ政

府ト全ク違ッタコトヲ言ッテ、サウシテ誤ッ

テ、……農家全體ヲ誤ラシムルヤウナ結果

ニ陥ルト云フコトハ甚ダ私残念ニ思フノデ

アリマス、此點ニ付テ農林大臣ノ御所見ヲ

伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(町田忠治君) 只今上山委員ノ

米穀ノ生産費ニ對スル帝國農會ガ發表シマ

スル生産費ト、農林省ガ今年調べマシタ生

産費ノ調査ナルモノハ御話ノ通り四五圓ノ

差ガアルノデアリマス、御斷リ致シテ置キ

マスガ、農林省ノ當年ノ生産費ノ取調ハ、

此米穀法ノ御協賛ヲ得タ後ニ調査スルト云

フ爲ニ、相當ナ經費ヲ御要求イタシテ居リ

マスルガ、此度ノ調査ハホンノ參考ノ爲ニ

僅力數府縣ニ互ッテ、調査シタ農家ノ戸數モ

極メテ僅少デアリマシテ、是ハ發表セヌ考

デ居リマシタガ、衆議院ノ委員會ニ於テ是

ハ責任アルモノトシテノ發表ヲ請フノデヤ

ナイ、ホンノ參考ノ爲デアルカラシテ、其

意味ヲ以テ提出ヲ請フト云フ強テノ希望  
デアリマシタガ故ニ之ヲ出シタノデアリマ  
ス、ソコデ新聞等ニ依リマシテ帝國農會ノ  
方ハ二十六圓ヲ中心トシテ生産費ガ調査  
出來、農林省ノ方デハ二十二圓足ラズト記  
憶シテ居リマス、サウ現ハレテ新聞ニモ相  
當ヤカマシカッタノデアリマスガ、米穀法ハ  
上山委員ノ御話ノ如ク、大體ニ於テ暴騰暴  
落ヲ防イデ生産者並ニ消費者ノ利害ヲ大體  
ニ於テ調和スル意味ニ於テ出來テ居ルノデ  
アリマス、衆議院ニ於キマシテハ米ノ生産  
費ヲ割ツ場合ニ、之ヲ米穀法ヲ出動イタサ  
ナケレバ、人口ノ増進ニ伴フ食糧ノ不足ヲ來  
スト云フ國家存立ノ上ノ重大ナル問題トシ  
テ、出來ルナラバ、生産費ヲ打割ラヌヤウ  
ニ米穀法ノ出動ヲ望ムトノ希望ハ非常ニ強  
イノデアリマス、御話ノ通り商工業ノ生産  
費ニ於キマシテモ、經濟上ノ事情ニ依ッテハ  
生産費ヲ打割ッテ居ル場合モ相當アルノデ  
アリマスガ、併シ殊ニ國家ガ米穀法並ニ生  
絲補償法ト云フ特別ナ保護ヲ致スベキ法律  
ヲ作ッテ居ル事實カラ見マス、最モ重大ナ  
ル産業トシテ特別ニ之ヲ取扱ッテ居ルコト  
ガ明カデアリマスルガ故ニ、出來ルナラバ  
生産費ヲ打割ッテ人口過半ヲ占メテ居ル農  
家ノ、是ガ爲ニ生ズル農家ノ困難、農村ノ

不振ヲ防グコトハ考ヘテ居リマス、唯衆議  
院ノ委員會デモ屢申シマシタガ、農村ヲ中  
心トシタル要望、生産費ヲ打割ラヌヤウニ  
ト云フ、其生産費ハ矢張り全國ノ生産費  
ヲ取調ベテ其平均ヲ出シタ生産費ヲ見ル  
ヨリ仕様アリマセヌ、此處ガ甚ダ困難  
ナ所デアリマシテ、若シ全國ノ生産費  
ヲ調ベマシテ、土地ノ豐饒或ハ原野若ク  
ハ山ニ沿ウタ所ト云フヤウナ按排ニ依ッ  
テ生産費ガ著シク違フコトハ、上山委員ガ  
政府ニ於テ此問題ヲ取扱ハレタ當時カラ能  
ク御承知ノ通り、大正五年ニ米價調節委員  
會ガアリマシテ、私ナドモ其委員ノ一人デ  
アリマシタガ、全國ノ生産費ヲ調ベテ見マ  
スト、所ニ依ッテハ高イ所ガ百圓ヲ越ス、低イ  
所ハアノ當時ニ於テ十一二圓マデ生産費ガ  
下ッテ居ル、此一番高イ生産費ヲ基礎トシテ  
米穀法ヲ發動スルト云フ譯ニハ、國家ノ力  
ヲ以テシテモ困難ナ問題デアリマスガ故  
ニ、結局平均シタル生産費デアルト云フコ  
トニシマス、或ハ三分ノ一トカ半分位カ  
矢張り生産費ヲ打割ッテ所ニ於テ、其後ニ於  
テ發動スルト云フ結果ニナルト思ヒマス、  
帝國農會ガ生産費二十六圓ト申スノモ、矢  
張り是ハ全國ノ平均カラ出來タモノデ、高  
イ所ハ三十七八圓ニ行ッテ居ルト思ヒマス、

故ニ全體ノ生産者ヲ保護スルト云フ意味ニ  
於テ米穀法ヲ發動スルト致シマス、一番  
高ク生産費ノ掛ツタ所ヲ基礎トシテ發動シ  
ナケレバ、生産者全體ヲ保護スル譯ニ參リ  
マセヌガ、サウハ實際ハ參リマセヌ、ソレ  
カラ私ノ方ノ今度調ベマシタ二十二圓ヲ中  
心トシテ出マシタノハ、此度御協賛ヲ願フ  
爲ニ、只今御審議下サッテ居ル生産費ノ項目  
デアリマスガ、十數項ニ涉ッテ米穀調査委員  
會ニ於テモ長ク審議シテ、生産費ヲ見出スニ  
ハ、之ノ十數箇條ニ涉ル要件ヲ調査スル  
ト云フコトニ大體極マリマシタ、併シ委員  
會ニ於テモ學者、經驗家、皆生産費ヲ見出  
スベキ所ノ要件ニ對シテ、詳細ニ涉ッテノ論  
議ガアリマシテ、大體ハ農林省ノ參考案ヲ  
是認セラレテ居リマスケレドモ、其細カナ  
點ニ至ッテハ一致シナカッタ、出來ルダケ之  
ヲ完備イタシタイ爲ニ、非公式デアリマシ  
タガ、全國各大學、九州大學、北海道大學  
等ニ至ルマデノ農科ノ、農業學者ノ内ノ  
農業經營ニ屬スル專門博士ニ態、御寄リヲ  
願ッテ、ソコデ此要項ニ付キマシテ數日ニ  
涉ッテ研究サレテ、大體意見ノ一致ヲ見タノ  
デアリマス、帝國農會ニ於キマシテハ、ヤ  
リ方ハ餘程違ヒマス、例ヘテ一例ヲ申シマ  
スト、帝國農會ニ於キマシテモ、農林省ノ

案ニ依リマシテモ、一石ノ生産費ヲ見出ス  
コトノ要項中ニ於テ、例ヘバ資本ノ利子、  
土地ト云フ資本ノ利子ヲ如何ニ見積ルカト  
云フヤウナコトガ、非常ナ生産費ヲ見出ス  
コトノ差ノ生ズル一ツノ大キナ要目トナッ  
テ居リマス、農林省ニ於キマシテノ立テ方  
ハ、矢張り貸貸小作料ニ依ッテ見出シタ所ノ  
貸賃價格ニ對シテ米穀年度ノ初メノ十一月  
ノ米價ヲ基礎トシテ之ヲ見出ス、帝國農會  
ノ方ハ賣買價格ニ四歩ノ利息ヲ加ヘタモノ  
ニ依ッテ、資本ノ利子ヲ計算スル、斯ウ云フ  
ヤウナコトニ依ッテ三四圓ノ違ガ生ズルト  
云フヤウナ箇條ガ相當多イノデアリマス、  
ソナコトデアリマシテ、農林省ノ、非公  
式ニ差上ゲテアルト思ヒマスガ、二十二圓  
ト云フノモ、矢張り高イ所ハ二十七八圓、  
安イ所ハ昨年ノ生産費ハ十六圓位ノ農家ノ  
報告ヲ集メテ、其平均ガ二十二圓ニ相成ッテ  
居ルト云フヤウナ次第デアリマスカラ、此度  
御審議ヲ願ヒマス内ニ、自ラ生産費ヲ見出ス  
ベキ十數項ニ互ッテ御了解ヲ得タイト思ヒ  
マスガ、是ガ幸ヒニ御審議ニ依ッテ確定イタ  
シマスルト、御話ノ通り、帝國農會ハ農林  
省ノ監督ノ下ニアリマスノデアリマスルガ  
故ニ、將來帝國農會ノ生産費ノ調査ニ對シ  
テハ農林省ノ調査ト歩調ヲ同ジクスルヤウ

ニ努メルコトハ勿論デアリマス、尙ホ是ハ極メテ非公式ニ相談ヲ致シテ居ルコトデアリマスガ、農務局長ト帝國農會ノ理事者ノ間ニ相當意見ノ交換ヲシテ、稍、一致シ掛テ居ル方ニ參ッテ居ルコトモ併セテ申シテ置キマス、其邊デドウゾ御了解ヲ願ヒタイ

○上山滿之進君 モウ一ツ御尋不致シマス、衆議院ノ決議ハ原案ニ全部賛成デアリマシタガ、其委員會ノ席上デ希望條項ガ出テ居リマス、其御仕舞ノ所ニ、最低基準價格ハ努メテ米穀生産費ニ近カラシムルヤウ最善ノ考慮ヲ拂ハレムコトヲ望ム、斯ウ云フコトガ附イテ居リマス、別段農林大臣ガ此希望條項ニ付テ賛成ヲ表シテ居ラレルコトハ記錄ニハ見エマセヌガ、此點ニ付テ農林大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、是ガ矢張り只今……先刻申シマシタ生産費ヲ……米價ノ生産費ヲ割ッテハナラヌト云フコトノ考ガ基礎ニナッテ居ルト私ハ思フノデアリマス、成程國民ノ半數ヲ占メテ居ル農家デアリマス、サウシテ、其米穀法ト云フモノハ特別ニ出來テ居リマスケレドモ、米穀法ノ出來テ居ルノハ、スルガ故ニ米價ノ……米ノ生産費ヲ保護、保障スルト云フ意味デ出來テ居ルノデハナイノデアッテ、生産者ト消費者ト、双方ヲ保護シテ、

甚シキ場合ニ保護シテ、サウシテ此米穀經濟ヲ適當ニ進メテ行キタイト云フノガ米穀法ノ立案ノ精神デアリマスカラ、此米穀法アルガ故ニ、米ノ生産費ヲ保障スルト云フコトノ意味ハドウシテモ考ヘラレナイノデアリマス、若シソレヲ斯ク考フルナラバドウシテモ國民ノ残り半數ノコトヲ考ヘナケレバナラス、商工業者……今日ノ場合ニハ、現ニ商工業者ハ苦境ニ墮テ居テ生産費ヲ割ル所デハナイ、工業ノ如キハ元モ資本モ殆ド無クシテシマフ狀況ガ可ナリアルノデアリマス、之ヲドウシテ保護セズニ置イテ農家ノ生産費ダケハ保障スル、サウシテ農家ダケ安泰ニ置ケバ物價ハ宜イト云フ譯ニハドウシテモ私ハ參ラヌト斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、此衆議院ノ希望決議ハ生産費ニ近カラシムルヤウ最善ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム、是ハドウシテ生産費、生計費、率勢米價ト三ツ揃ッタラ如何ニシテ御決メニナルカ、是ハ今日ソレハ御尋ネ致シマセヌガ、生産費ニ近カラシムルト云フ、生産費ノ方ニ近ク基準價格ヲ持ッテ來イト云フコトハ、ドウシテモ根本ニ於テ米穀政策ノ誤タル考ヲ含ンデ居ルト斯ウ思フノデアリマス、農林大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(町田忠治君) 御尤モノ御尋ト思ヒマス、是ガ通りマシテ運用ノ責任ヲ取リマスル場合ノ立場ヲ考ヘテ見マスレバ、上山委員ノヤウナ實際問題トシテノ考慮ヲ重ネナケレバナリマセヌ、實際問題ガ生ズルノデアリマス、唯衆議院ニ於キマスル委員會ノ、見渡ス所多數ハ生産者ノ利害ヲ代表スル人ガ多クヤウデアリマシテ、消費者階級、庶民階級ノ生活難ノ方カラ見ラルル委員ガ比較的少クヤウニ思ヒマス、質問應答ハ多ク生産者側ノ方ガ多ク、ソレデ申スマデモナク生産費、生計費ノ調査ガ出來ヌ、急イデ調査イタシマシテモ直ニ生産費、生計費ノ調査ガ出來ル譯デアリマセヌカラ、暫クハ此率勢米價一本デ參ルノデアリマス、愈、生産費、生計費ガ出來マシタ時ニハ、政府ガ米ヲ買入レル場合ニハ生産費ト率勢米價ノ二ツノ基礎ヲ本トシテ、農林當局ガ米穀委員會ニ諮ッテ決メルノデアリマス、唯若シ率勢米價ニ依ッテ得マシタ十一月ニ於ケル價ト、生産費ニ依ッテ茲ニ見出サレタ價ニ相當ナ開キガアル場合ガアルト思ヒマス、例ヘバ今日ノ場合デ、此法律ガ出來タト致シマスルト、率勢米價ノ下値二割ハ今日ハ十八圓ガ中心デアリマセウ、生産費ヘ假リニ農林省ガ先般

調査シタ不完全ナル材料ト申シテ宜シイ、其不完全ナ材料ニ依ッテ調査シタ生産費ガ三十二圓ト出テ居マス、ソコデ此法律ガ出來マシタ時ニ農林當局ハ十八圓ト云フ率勢米價、下値二割、二十二圓ト云フ生産費ガアッテ、茲ニ四圓ノ距リガアルト、此場合ニ農林當局ハ何處ヲ中心トシテ天下ニ向ッテ今年ノ米穀年度ニ於テハ此値ヲ打割ルト米穀法ガ發動スルト云フ價格ヲ公ニスルノデアリマス、其時ニ衆議院ノ希望ハ、委員會ノ希望ハ成ルタケ生産費ニ近イヤウニヤレト云フノハ十八圓ト二十二圓ト云フ二ツヲ調和スル場合ニ、出來ルナラバ二十二圓若クハ二十一圓ニセイト云フ希望デアリマス、丁度是ト反對ニ率勢米價、上値二割、生計費ヲ割出シタ場合ニモ同ジヤウナコトガ出來ル、例ヘテ申シマスレバ二十二圓カラ上値二割トスルト二十七圓位ニ今日ノ米價ガナッテ居ル、家計費ノ方カラ申シマスルト三十圓位ニナッテ居ル、サウスルト三十圓ト二十七圓ノ間ノ調和ヲ如何ニ取ッテ米穀法ガ出動スルカト考フルノデアリマス、同様にガアリマスガ今ノ生産費ニ付テノ希望カラ申シマスルト、二十一トカ二十二圓ニ近イモノデヤッテ吳レイト云フ希望デアリマス、ソレデドノ邊デ決メルカト云フコトハ當時

ノ經濟社會ノ狀態ニ依ッテ、或ハ生産費ニ近イ所ヲ考ヘル場合ト、率勢米價ニ近イ所ヲ以テ出動スルト云フコトヲ考ヘル場合ト、一般經濟社會、或ハ生産者タル農家ノ其當時ノ狀態、勞働者階級ヲ初メトシタル細民等ノ生活狀態ニ鑑ミテ、其時々ノ狀況ニ依ッテ責任ヲ執ル外、豫メ常ニ生産費ニ重キヲ置クトハ認メラレヌト思ヒマス、場合ニ依レバ經濟狀態ニ依ッテ生産者ニ重キヲ置ク意味ヲ以テ價格ヲ決メル場合モアリマセウシ、消費者階級ノ生活狀態ニ依ッテハ率勢米價下値ニ赴ク場合モアリマシテ、豫メドチラニ重キヲ置クト云フコトヲ確定シテ居ル譯ニハ參ラヌヤウニ當局トシテハ考ヘテ居リマス

○上山滿之進君 只今ノ場合ニ於テ生産費、生計費、率勢米價トノ調和ヲ如何ニスベキカト云フ確定的ノ御考ガナイト云フコトハ、是ハ農林大臣トシテ御無理ノナイコトデアリマスカラ、ソレヲ追究イタス者デハアリマセヌガ、併シ今日ノ率勢米價、今日ノ、兎モ角モ不完全ト仰シヤルケレドモ、實際懸タタ生産費、其間ニ持ッテ行ッテ四圓ノ開キガアル、率勢米價下値ニ割、ソレカラ生産費トノ間ニ四圓ノ開キガアラウト、斯ウ云フノデアル、ソレヲ其時ノ狀況ニ依ッテ

米穀委員會ヘ相談シテ決メルト仰セニナリマスガ、ソコガ今日米穀法ガ不完全ナ不健全ナル運用ヲシテ來タ結果ナノデアリマス、唯不健全ナ程度ガ幾ラカ今度改善ガ出來レバ開キガ少クナルト云フコトニナルガ、ソレデモ矢張り四圓ト云フモノヲ其時ノ模様デ決メヤウト云フコトハ大變ナソレハ困難ナ問題デアッテ、蓋シ其場合ニハ從來ノ例ニ依レバ生産費ニ近イ方ニ何時モ決マルデアラウト想像ガサレマス、過去ノ例ニ依ッテ明瞭ニ想像ガ出來マス、ソレハチャント事實ヲ舉ゲテ數字ヲ以テ御説明ガ出來マス、是ハ一ツ何トカ御考ヘニナラヌト私イカヌト思フ、唯米穀生産費ノ調べハ、此處少クトモ一兩年、モウ少シ長イト私ハ思ヒマスガ、少クトモ一兩年掛カルノデアリマスカラ、其間ニ適當ニ御考慮ヲ願ッテ置キタイト思フノデアリマス、序デニ附加ヘテ置キマスガ、米穀生産費ハ如何ニシテ調べルカト云フコトノ調べノ項目ヲ後ニ御話ニナル時デ宜シウゴザイマスガ、私ハ米穀調査會ノ委員トシテ承知シテ居リマス範圍ニ於テハ、米ノ生産スルニ付テ有リト有ラヌル費用ヲ含シデ居ルノデアリマス、其費用ノ中ニハ勞銀、家庭ノ勞働ノヤウナモノヲ總テ勞銀ニ見積リマシテ十分カドウカ知リマセヌガ、

兎モ角モ普通ノ勞銀ヲ見積ッテアルノデアリマス、サウスルト小作人トスレバ勞銀ヲ完全ニ保障シテ貰フコトニナル、此位結構ナコトハナイノデアリマス、ケレドモ、生産費ヲ全部入レルコトハ必要デアリマスケレドモ、是デ米穀法ノ關係カラ言ッテ、斯ノ如キ値段ニナッタナラバ買出動シテ米穀ヲ引上ゲル、少クトモ下ガルコトヲ防止スルト云フ國家ガ行動ヲシヤウトスルノニハ、勞銀ヲ總テ保障シテ、勞銀以外ノ諸經費ハ勿論保障ヲシテ、サウシテ國家ハ運動スルト云フ理由ハドウシテモナイノデアリマスカラ、此點ダケハ此場合明カニ申上ゲテ置キマス、サウシテ生産費、諸經費、率勢米價ノ皆揃ヒマシタ場合ニ於ケル調和策ニ付テハマダ數年ノ時ガアリマスカラ、其間ニドウカ御考ヘ下サイマシテ、サウシテ又再ビ今日マデノヤウナ、今日マデニ似タヤウナ米穀法ノ運用ノ經過ヲ取ラナイヤウニ希望イタシマス、私ハ他ニマダ質問ガゴザイマスケレドモ、先ツソレデ止メテ置キマシテ、ソコデ別ニ項目ヲ改メテ伺フコトニシテ……

○委員長(伯爵堀田正恒君) チョット御待  
〔男爵今枝直規君、絲原武太郎君〕發言ノ許可ヲ求ム  
チヲ願ヒマス、今大臣ガ他ノ委員會ノ説明ニ行カナケレバナラスト云フコトデゴザイマスカラシテ、大臣ノアチラニ御出ニナッテ居ル間、政府委員カラ率勢米價ノ話ヲ伺ッタ如何デセウカ  
○國務大臣(町田忠治君) 甚ダ相濟ミマセヌガ、同ジ貴族院ニ於キマシテ、今日ハ生絲検査法ノ初メノ説明ヲ致ス爲ニチョット參ラスケレバイカヌノデゴザイマスカラ、甚ダ失禮デスガ、暫時此席ヲ退クコトヲ御許シテ願ッテ、此前御話ノアツタ率勢米價ノ説明ヲ農務局長ヨリ説明ヲスルコトニシテ願ヒタイト思ヒマス、直グ參リマスカラ、暫時……  
○絲原武太郎君 チョット私ハ只今ノ上山委員ノ御質問ニ關聯シマシテ、此米價ノ、米ノ生産費ノコトニ付キマシテ、農林當局ニ參考ノ爲ニ御尋ヲシテ見タイト思ヒマス、御許シテ願ヒマス  
○委員長(伯爵堀田正恒君) 宜シウゴザイマス  
○絲原武太郎君 前回ノ委員會ニ於テ質問ヲ致シマシタニ付キマシテ、農林當局ノ方カラ、農林省ノ米價ノ調査、生産費ノ調査ト帝國農會ノ調査ト相違ガアル、即チ土地ノ負擔ニ對スル、租税ノ負擔ヲ如何ニ分轄負擔セシメルカ、モウ一ツハ土地ノ資本利

子ヲ如何ニスルカト云フコトノ點ガ、ソコ  
ガ主ナル點デアリヤウデアリマス、私多年  
農會長ヲ致シテ居リマシテ、此帝國農會ノ  
生産費ノ調査ノ從來ノ方法ハ、殆ド今回御  
示シニナッテ居リマス所ニ稍、似寄、タヤウ  
ナ方法ニ依リマシテ、實際調査シテ居ルノ  
デアリマスガ、唯先キニ申上ゲマシタ二點  
ハ確カニ相違ヲ致シテ居ルノデアリマス、  
而シテ其結果現ハレマス所ノ昭和五年度ノ  
米ノ生産ガ、農林省ノ發表ニ依リマスレバ、  
二十一圓三十五錢、帝國農會ノ發表ハ二十  
六圓十錢、此處ニ於テ四圓七十五錢ノ差異  
ガアルノデアリマス、此四圓七十五錢ノ差  
異ハ、先キニ申上ゲマシタ調査方法ガ異リ  
マシテ、意見ガ異リマシテ、主ナル點ガ二  
點ト致シマス、此二點ノミニ付キマシテ、  
農林省ノ方デ若シ農林省ノ案ノ如ク假定シ  
テ、之ヲ算出セラレマシタナラバ、其開キ  
ガ或ル程度マデ或ハ接近スルカ、擴ガルカ  
分リマセヌガ、サウ云フヤウナコトニ付テ  
御調べニナリマシタコトガナイノデゴザイ  
マスカ

○政府委員(石黒忠篤君)

只今絲原サンノ

御質問デゴザイマスガ、初メニ御述べニナ  
リマシタ部分ノ、從來ノ帝國農會ノ調査方  
法ガ、今回農林省ガ、試ミニ昭和五年度ノ

米ニ付テ十三府縣ニ付テヤリマシタノト、  
大體同ジデアルト云フ御話デアリマシタ  
ガ、ソレハ違フノデアリマス、從來帝國農  
會ガヤリマシタ米ノ生産費調査ト云フモノ  
ハ、農林省ノ補助金ヲ得テ帝國農會自身ガ  
ヤッテ居リマスル、農業經營改善ノ爲ノ調査  
ト云フモノヲヤッテ居リマス、是ハ農家ノ米  
作バカリデハゴザイマセヌ、外ノ方法モ色  
色合セテ農家ノ一家ノ經營トシテヤッテ居  
リマスルノヲ、如何ニシテ行、タラ宜イカ、  
規模ヲ擴張シテ行クノニハドウシタラ宜イ  
カ、或ハソレニ家畜ノ飼養ト云フモノヲ加  
ヘテ行クノニハドウシタラ宜イカ、或ハ養  
蠶ヲモトト加味スルト云フコトハ、ドウシタ  
ラ宜イカト云フヤウナコトヲ、又米作地ダ  
ケデハゴザイマセヌ、都會附近ノ農業經營  
ノ改善ヲスルニハドウシタラ宜イカ、山沿  
ヒノ地方ノ農業經營トシテハドウシタラ宜  
イカト云フヤウナ、地方ノ色々異ナリマシ  
タ所ニ於ケル農家ノ經營ノ改善ノ調査ヲ致  
シテ居リマスノデアリマスガ、是ガ經營ノ  
實際ヲ記帳セシメテ居ル結果、ソレヲ利用  
イタシマシテ、其農家ノ營ンデ居ル仕事ノ  
一ツト致シマシテ、米作ニドウ云フ風ニ勞  
力ヲ費ヤシ、肥料ガ凡ソ幾ラ要ルカト云フ  
コトヲ推定イタシ、ソレ等ノ各種ノ方法ヲ

以チマシテ米作ノ生産費ト云フモノヲ出ス  
ト云フヤウナコトニ努メタ譯ナノデアリマ  
ス、ソレトモウ一ツハ、農林省カラ補助金  
ヲ出シマシテ、是ハ改善ノ調査デハゴザイ  
マセヌガ、今ノ農家ノ經濟ノ現狀ヲ有ルガ  
儘ニ記帳ヲシテ調べタイト、斯ウ云フ爲ニ  
府縣農會ニ補助ヲ農林省カラ致シマシテ農  
家經濟調査ト云フモノヲヤッテ居リマス、多  
少似タモノデアリマスガ、趣旨ガ違フノデ  
アリマス、併シ農家ガ自ら記帳ヲ致シテ自  
己ノ經濟ヲ知テ行クト云フコトハ同ジコ  
トデアリマス、其農家經濟調査ハ府縣農會  
ニ助成ヲ致シテヤラセテ居リマスル記帳ヲ  
矢張り利用イタシマシテ、其中ニ於テ米作  
ノ經濟ト云フモノヲ區分ヲ致シテ、サウシ  
テ米ノ生産費ト云フモノヲ出ス、斯ウ云フ  
コトニ努メテ居ルノデアリマス、而シテ此  
方ニ於キマシテモ農家ノ經濟ノ現狀ヲ記帳  
ニ依ッテ知ラウト云フノガ目的デアリマス  
ルガ故ニ、必ズシモ米作地方ノ米作農家ダ  
ケニ限ッテ居ルノデハナイ、少數デハアリマ  
スガ都會地附近ノ農家モ調べニ這入ッテ居  
リ、山村ノ近クノ農家ノ經濟モ矢張り這入  
テ居ルノデアリマス、是ハ各、目的ガソレド、  
ニアルノデアリマシテ、ソレヲ偶、米穀生産  
費調査ノ材料ニ利用ヲ致シタト云フノガ從

來ノ帝國農會ノ米ノ生産費調べノ狀況デゴ  
ザイマス、デアリマスルカラ米產地ニ於ケ  
ル米作農家ト云フモノニ付テ、米ノ生産費  
ダケヲ出スト云フ専門ノ目的ヲ有ッテ調査  
ヲ致シタ今回ノ農林省ノ試ミニ調査ト云フ  
モノトハ、從來ノ帝國農會ノ調査ハヤリ方  
ガ違ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ五年度  
産米ニ付キマシテ帝國農會ガ五年度ニ於テ  
特別ノ米ノ生産費調査ヲヤッテ居ルノガア  
ルノデアリマス、ソレハ農林省ノ生産費調  
査トシテ今回御覽ヲ願ッテ居リマスルモノ  
ト略、同ジデアリマス、從來ノガ違ヒマス  
ガ、五年度マデノ特別調査ハ同ジダト斯ウ  
御了解ヲ願ヒタイノデアリマス、サウシテ  
其結果農林省ノ方ガ二十一圓三十五錢ト平  
均ガ出テ居リマシテ、帝國農會ノ方ガ二十  
六圓ト出テ居リマスルノハ、ソレハ帝國農  
會從來ノ調査ノヤリ方デハナクシテ、新シ  
イヤリ方ノモノデ、農林省ノト大體同ジ方  
法ト云フコトハ認メテ宜シイ方法デ出テ居  
ルノデアリマス、サウシテソレノ結果ガ違  
ヒマスル所以ハ先日申上ゲマシタヤウニ二  
點ノ所デ違フノデアリマス、是ハ調査方法  
ト申シテ宜シウゴザイマスガ、或ハ調査ノ  
結果ヲ取纏メル方法ト申シテ宜シウゴザイ  
マスガ、二點ニ於テ違ヒガアルノデアリマ

ス、而シテ主ナル二點ノ違ヒト云フコトハ明カニ分ツテ居ルノデアリマスカラ、ソレヲ只今絲原サンノ御話ノ如ク一方ノ遣リ方ニ換ヘテ見タナラバドウカ、試ミニ換ヘテ見ルト致シマスルト云フト、農林省ノ方ノ調査ニ於キマシテハ土地ノ價格ト云フモノヲ想像イタシテ付ケテ居リマセヌノデアリマスカラ、之ヲ幾ラカト云フコトニ帝國農會ノ遣リ方ノ方ニ換ヘテ見ル譯ニ參リマセヌ、試ミニ同ジ遣リ方ニ換ヘルナラバ、帝國農會ノ方ヲ農林省ノ方ノ遣リ方ニ換ヘテ見ル外方法ガナイノデアリマス、ソレヲ私共モヤッテ見マシタガ、ソレヲヤッテ見マスルト云フト大體ニ於テ餘リ大差ハナイヤウニ結果ガナリマスノデアリマス、其詳細ハ荷見政府委員ヨリ申上ゲテ御聽キヲ願ヒタイト思ヒマス

○絲原武太郎君 只今農務局長カラノ御説明ノ如ク如何ニモ從來ノ此農家經濟ノ調査ハ御説明ノ通りデアリマス、併ナガラ各府縣農會ニ於キマシテハ、如何ニモ農林省ノ御趣意ニ依リマシテ農家經濟ノ調査ハ致シマス、米ノ生産費ヲ農家經濟其他ニモ相違ハ之ヲ區分イタシマシテ今御説明ニナリマシタ通り、サウシテ之ヲ算出推定イタシマスルニハ、矢張り殆ド今回御示シニナッテ居リ

マスルヤウナ點ニ付キマシテハ、ソレノ皆考慮ヲ加ヘテ從來モ調査シテ居ルノデアリマス、又昭和五年度ニ付キマシテハ如何ニモ只今御説明ニナリマシタ通り、從來ヨリ一層進シテサウシテ農林省案ニ近イモノニ依ッテ調査シテ貰ヒマシタモノガ此ノ價格デアルト云フコトハ今ノ御説明ノ通りデゴザイマス、爾カ致シマシテ只今御説明ニナリマシタ通り其二點ノ相違ガアル、調査ノ目的ニ相違ノアル爲ニ其ノ差額ニ、即チ兩者間ノ生産費ノ相違四圓七十五錢ノ差額ハ殆ド近寄タト云フヤウナ御説明デゴザイマスカラ、サウ致シマシテ、サウ云フコトニナリマス此米ノ生産費ノ調査ニ關シマシテハ、之ヲ何レガ適當デアルカト云フコトニ私ハ止マルモノダト思ヒマスガ、此點ニ付キマシテハ更ニ研究モ致シテ見マスルガ、併シ前回申サレマスル如ク、若シ此小作表ニ依リマシテノ算出ニ基クコトニ相成リマスト云フト、十一月ノ米價ヲ以テ小作米ノ價格ノ標準ニスルト云フヤウナ御説明デアッタヤウデゴザイマスガ、此十一月ト云フ月ハ前回申上ゲマシタ如ク米ノ一番多ク出來ル盛リノ時期デアリマス、一年中最モ米ノ潤澤ナル時期ノ相場デアリマス、此十一月ヲ標準トナサル、サウシテ小作米

ノ見積價格ヲ御推定ニナルト云フコトハ、果シテ當ヲ得テ居ルカドウカト云フコトハ頗ル疑問ト私ハ考ヘマス、此點ダケヲ申上ゲマシテ、只今詳細ノ御説明ヲ下サレルト云フコトデアリマスカラ、ソレヲ承リタイト思ヒマス

○政府委員(石黒忠篤君) 御尤ナ御質問デアルト存ジマス、土地ノ價格ヲ見積リマシテ、更ニソレニ利子トシテ幾分幾厘ヲ適當ト認メルカト云フコトノ御認定ガアリマシテ、ヤッテ行ク方法、是モ確ニ一ツノ方法ト存ジマス、唯農林省ガ其方法ヲ執リマセヌデシタ理由ハ、前回申上ゲマシタ通りデゴザイマス、ソコデ小作料ノ方ニ依ッテ計算ヲ致シマスル方法ト致シテモ、十一月ノ米價ヲ以テ換算ヲ致スコトガ、適當ナリヤ否ヤト云フコトニ付テモ、問題ガアルト云フ仰セデアリマスガ、御尤ナ御質問ト存ジマス、之ニ關シマシテハ同ジヤウナ御議論ガゴザイマス、十一月ト云フモノハ米價ノ比較的安イト云フ御意見モアルノデアリマス、大體ニ於テ新米ノ年度ト致シマシテ先ヅ十一月ガ初マリデアリマスヤウニ思ヒマス、此一年中ノ一番安イ時ト云フヤウナコトニモ思ハレナイソレヲ採リマシテヤルコトハ、必シモ私ハ不穩當デアルトハ考ヘマセヌノ

デアリマス、人ニ依リマスト云フト、寧ロ一年中ノ平均ノ米價デモ採ッタラドウカト云フ御説ガアルノデアリマスガ、一年中ノ米價ノ……平均ノ米價ヲ採ルト云フコトニナリマスト云フト、米穀年度ヲ一年經過シテ見ナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、サウ云フコトハ新米ニ對シマスル生産費ト云フモノヲ考ヘル際ニドウモ不適當ダラウト思フ、ソレカラ小作料ノ採ル以上ハ、大體ニ於テ十二月カ若クハ舊節季ノ時ガ納メル時デアルカラ、寧ロ二圓位マデノ間ノ米價ヲ採ッタラ宜イデヤナイカト云フコトモ、私ノ友人ナドカラ申シテ來テ居ルノガアリマス、是モ一應ノ説ダト思ヒマス、併ナガラ此處デ新ニ收穫ガアリマシタ米ニ對シマシテ、出來ルダケ米穀年度ノ初メカラ、米穀法出動ノ最高及最低ノ基準ヲ決メヤウト云フ必要ガアルノデアリマスルカラ、出來ルダケ早イ機會ニ於テ之ヲ決定ヲ致シ、米穀委員會ニ掛ケナケレバナラヌト云フ必要ガアルノデアリマス、其場合ニ於テ小作料主義ヲ採リマシテ、何時ノ米價ヲ採ッタラ宜イカト云フコトニナリマス、自ラ十一月ノ米價ヲ採ルト云フコトガ、最モ早ク新米ニ對シマスル米穀法出動ノ基準ヲ決定スル上ニ於テ適當ナルコトデアラウ、

又必要ナルコトデアラウ、斯ウ考ヘルノデアリマス、旁、十一月ノ地方ニ於ケル米價ト云フモノヲ現實ニ採リマシテ、換算ヲ致スト云フ主義ヲ採リタ次第デアリマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 絲原君モウ宜イノデスカ

○絲原武太郎君 マダ政府委員ノ方カラ御説明ガアルヤウデスカラ……

○政府委員(荷見安君) 今御質問ノ若シモ帝國農會ノ生産費ノ調べ、農林省ノヤウナ方法ニ依ッテヤッタナラバ如何ナル結果ガ出ルカト云フ御質問ト考ヘマシタガ、其コトハ只今農務局長カラ申上ゲタノデ大體盡キテ居リマシマス、外ノ點ハ皆對照イタシマシテモ、或ハ農林省ノ調査ノ方ガ項目ニ依リマシテハ費用ヲ高く取ルノモアリマス、低ク出テ居ルノモアリマス、併シ其差ト云フモノハ極メテ僅少ナ差ニナッテ居リマス、ト申シマスルノハ今回私共ガ調査方法ヲ決定シマス時ニ、帝國農會ノ幹事モ協議ノ時ニ呼ビマシテサウシテ相談イタシマシタ、其結果ニ依ッテ我々ノ調査イタシマシタ項目ノ決定アタリガ宜カラウト思フカラ、自分ノ方デモソレニ依ッテ做ッテ見ヤウト云フ立前デ、帝國農會ガ御調べニナッタラシイノデアリマスカラ、ソレデ大體マア似テ

居リマス、評價ノ方法ノ如キモ農務局長カラ先日モ申上ゲマシタガ、自給肥料ノ計算方法ノ如キハ、皆農林省ノ換算率ニ依ッテ換算シテ居リマス、デスカラ異ナリヤウガ誠ニ少イノデアリマス、唯其土地資本利子トソレカラ米作ノ……米ノ生産費ノ中ノ租稅

諸負擔ヲ裏作ニ負擔セシメナカッタト云フ點ガ違フノデアリマシテ、私共ノ方ノ調べデハ土地資本利子ト見ルベキモノガ、十圓六十二錢バカリニナッテ居リマスノガ、帝國農會デハ二十二圓五十八錢、ソレカラ租稅諸負擔ガ私共ノ方ハ六圓六十八錢ニナッテ居リマスノガ、帝國農會ノ方デハ八圓九十九錢、斯ウ云フコトニナッテ居リマス爲ニ、其差額デ以テ二石七斗、マア三石バカリノモノヲ割リマスト云フト、今ノ差ニ近イモノニナリマス、其外ノ例ヘバ此種子代ノ如キモノハ、我々ノ方デヤリマスト段當リガ六十五錢位ニナリマスノガ、帝國農會ノ方デアリマスト六十四錢ニナッテ居リマス、ト云フヤウナ實例ヲ申上ゲマスト極メテ近接シタ關係ニナッテ居リマス、ソレデ土地資本利子ヲドウシテ計算シタラ安當デアルカ、租稅諸負擔ヲ何故ニ裏作關係ニモ負擔サセタカト云フコトニナリマスト、是ハ農務局長カラ先日詳シク申上ゲタ通りデアリマスカ

ラ、重複イタシマスカラ申上ゲマセヌ

○絲原武太郎君 只今ノ御説明デ其點ハ能ク了解イタシマシタ、此四圓七十五錢ノ差額ハ生産費ノ取調ノ農林省ノ發表カラ見マスト約二割ノ茲ニ差額ガ起ルノデアリマス

此點ニ付キマシテハ今後更ニ、上山委員ノ御質問ニ對シマシテ、農林省ニ於キマシテハ農會ト協調ヲ遂ゲテ將來思考シヤウト云フヤウナ御意見デゴザイマシタ、私ハ此生産費ニ付キマシテハ此上ハ申上ゲマセヌ、此生産費ヲ御調べニナリマス點カラ申シマシテモ、此二割ノ差額ト云フモノハ實ニ此大キナ相違デゴザイマス、此意見ガ將來兩者間ニ永ラク相違ガアリマスト云フコトニナリマスト、此生産費問題ハ隨分將來モ之ニ付テノ議論ガ繼續スルモノト思ヒマスノデ、出來得ルコトデゴザイマスレバ、折角此際米價ノ公正ナル基準ヲ御作りニナリ、御見出しニナルト云フヤウナコトカラ、今回ノ米穀法ガ改正ニナリマシテ、一方デハ生計費モ御調査ニナリ、一方デハ所謂率勢米價ト云フヤウナモノモ色ミ算出ニナリマシテ、三者併セテ公正ナル茲ニ米價ノ算出ヲナサルト云フコトニナリマスト、其一タル所ノ生産費ノ調査ト云フモノハ、頗ル又重大性ヲ帯ビルモノト考ヘルノデゴザイマ

ス、私等カラ申シマスト、兎角生産者側デゴザイマスカラシテ、殊更此生産費ト云フコトガ餘程關係スルカノ如ク感じマスノデゴザイマス、何卒此點ニ付キマシテハ、私等ノ方デモ其研究ヲ重ネタイト思ヒマスルガ、農林當局ノ方トシマシテモ、之ヲ御發布ニナルマデニ於テ相當ノ御考慮ヲ慎重ニ御願ヒシタイ、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ、私ハ此米ノ生産費問題ニ付キマシテハ質問ヲ打切りマス、尙ホ率勢米價ニ付キマシテ御伺ヒ致シタイト思ヒマスルガ、是ハ御説明ガアルヤウニ思ヒマスカラ其後ニ致シタイト思ヒマス

○子爵片桐貞夫君 今絲原君カラ率勢米價ノ御説明ガアルヤウナ御話モ伺ヒマシタガ、私モ此率勢米價ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレハ何カト申シマスト、今度ノ此米穀法ノ發動ニ付キマシテハ率勢米價並生産費、家計費ガ標準ニナッテ居リマスシ、此家計費、生産費ヲ御調べニナルマデハ率勢米價ヲ以テ標準トサレテ、米穀法發動ノ基準トセラレテ居リマスルモノト思ヒマス、率勢米價ハ參考書ヲ讀ンデモナカナカ分リ惡クイノデゴザイマスカラ、又我々ノ同僚カラ聽カレマシテモ、分ッテ分リ惡クイヤウニ思ヒマスカラ、ドウカ率勢米

價ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(石黒忠篤君) 此度米穀法ノ改正法案ヲ御審議ヲ願フテ居リマスノニ付キ

マシテハ、此點ハ一應御説明ヲ申上ゲル必要ハアルト考ヘテ居リマシタノデアリマスガ、只今御許ヲ得マシタカラ、是ヨリ大體ニ付テ申上ゲテ見タイト存ジマス、米穀法ノ條文ノ上ニ於キマシテハ、率勢米價ト云フヤウナ文字ハ現ハレテ居リマセヌノデアリマシテ、改正案ノ第五條ノ規定ノ中ニ三ツノ事項ヲ基礎トシテ、最高最低ノ價格ハ命令ノ定ムル所ニ依ッテ定メル、斯ウ云フコトガアリマシテ、其一番仕舞ニ「米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格」トゴザイマスノガ、即チ我々ノ略稱シテ率勢米價ト申シテ居ルモノナノデゴザイマス、ソコデドウシテサウ云フ餘リ慣レヌ熟字ヲ以テ略稱ヲ致スカト云フコトヲ申上ゲテ見マス、是ハ米價率ノ趨勢値ヨリ算出イタル米價ト云フコトヲ省略イタルマシテ率勢米價ト、斯ウ申シテ居ル譯デアリマス、要スル法文ノ示シテ居リマスルヤウニ米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格ト云フコトニナルノデアリマス、然ラバ其米價率ト云フモノト、米價率趨勢値ト云フモノガ、ドウ云

フモノデアアルカト云フコトヲ申上ゲル順序ニ相成ルノデアリマス、併シ其前ニ一應寫ト御了解ヲ願フテ置キタイト考ヘマスルノハ、斯ウ云フコトガドウ云フ主張カラ出テ參ルノデアアルカト云フ點デゴザイマス、御手許ニ配付ヲ致シテ置キマシタル米穀調査會ノ答申、ソレノ第一ノ答申ヲ御覽ヲ願ヒマスルト云フト、其第一ノ答申ノ一番初メノ事項ト致シマシテ「米價基準ヲ設定スルハ緊要ナリト認ム、仍テ政府ハ速ニ米穀法ノ發動ニ必要ナル米價ノ最高最低基準ヲ調査決定スベシ」斯ウ云フ答申ガアリマシテ、其説明トシテ次ノヤウナ事ガ書イテゴザイマス、「米穀法ノ運用ニ當リ據ルベキ米價ノ最高最低基準ヲ設クルコトハ、米穀法ノ發動ヲ公正ナラシメ、運用ニ遺憾ナカラシムル上ニ於テ極メテ緊要ナリト認ム、本會ニ於テハ物價指數ニ基ク案、生産費及生計費ニ基ク案、物價指數ニ米價ノ趨勢ヲ加味スル案等ノ提出ヲ見タルモ各種ノ事情ニ付尙ホ充分ノ調査ヲ遂グルノ必要アリ仍テ政府ニ於テ速ニ成案ヲ得ル様力ムベシ」ト云フ説明ヲ以テ此基準米價ヲ立テルヤウニ致セト云フ一項ノ答申ガナサレタノデアリマス、此説明ノ中ニアリマスル基準設定ニ付テノ意見ノ色ミノモノガ出テ居リマスルガ、大

要之ヲ分ケマスルト云フト、物價指數ト云フモノハ今日ノ經濟界ニ於テ通貨ト商品トノ關係ヲ現ハシテ居ルモノデアアル、デ之ガ物價ガ高クナッタトカ安クナッタトカト云フコトヲ判定ヲ致シマスル際ニ、常ニ物價指數ト云フモノヲ見テ、ソレヲ睨ンデ判斷ヲ致スノデアリマス、ソコデ米ト云フモノモ、我國ノ内國ニ於ケル取引ニ於テ最も大キナ商品デアアル上ニ、此通貨トノ關係ヲ始終考ヘテ、一ツノ大イナル商品トシテノ米ノ價格ト云フモノヲ念頭ニ置イテ、サウシテ米穀法出動ノ時ト云フモノヲ考ヘルノガ適當デアラウ、斯ウ云フ考ト、ソレカラ米ハ我國ノ國民ノ主要ナル生産物デアリ、又主要ノ食糧デアアルカラ、生産者トシテモ亦消費者トシテモ、其生産經濟ノ上ニ於テ又家計經濟ノ上ニ於テ極メテ重要ナルモノデアアルカラ、其兩方面ノ經濟關係ヲ考慮シテ、サウシテ米穀法出動ノ基準ヲ定メテ行クノガ適當デアラウ、斯ウ云フ意見ガ大體ニ於テ最も主ナル基準設定上ノ意見デアッタノデアリマス、ソコデソレノソレハ理由ノアルコトデアリマシテ、基準ヲ定メルト云フコトガ中ミムツカシイコトデアリマスルカラ、十分ナル論議ガ交換サレタノデアリマスルケレドモ、尙ホ調査ヲ必要トスルカ

ラ政府ニ於テ十分調査シタ上ニ於テ基準ヲ適當ニ立テルヤウニト斯ウ云フ決議ニナッタ譯ナンデアリマス、此只今申上ゲル所ノ率勢米價ト申シマスルモノハ、大體ニ於テ物價指數ニ基イテ米穀法出動ノ基準ヲ定メテ行ッタル宜シイノデハナイカ、斯ウ云フ觀念ニ重キヲ置イタル案ト御考ヘ下スデ宜カラウト思ヒマス、但シ物價指數ト云フコトハ是ハ今日ノ經濟界ニ於テ常ニ考慮ニ置カナケレバナラヌコトデアリマスルガ、一般物價指數ト云フモノハ何處ノ調査ニ依ルカト云フコトガ問題ニナリマス、是ハ方々デ近頃調べ進メテ居ルヤウデアリマスルガ、我國ニ致シマシテ一番古クカラ長イ調査ヲ發表シテ居リマスルノハ日本銀行ノ物價指數調査デアリマシテ、御承知ノ通りニ是ガ先ヅ我國ニ於テハ多クノ場合ニ認メラレテ居ルノデアリマス、ソレハ米以下五十六品ノ毎月ノ價格ノ指數デアアルノデアリマス、是ハ東京ニ於ケル卸賣價格デアリマス、此一般物價ト云フモノノ中ニハ米ノヤウナ重要ナモノガアルガ、併シ其外ニマルデ種類ノ違フ工業品モ這入ッテ居レバ、又衆議院等デハ問題ニナリマシタガ、輕節ダトカ云フヤウナ日常生活品デアリマスルケレドモサウ大キナ商品トモ思ハレヌヤウナモノモ這

入ッテ居リマス、サウ云フモノガアルノデア  
リマス、ソレヲ各商品ノ重要度ヲ認メナイ  
デ各々一品一トシテ同ジ對等ノ地位ニ於  
テ物價ノ指數ノ總平均ト云フモノヲ出シテ  
居ルト云フコトハ意味ノナイコトデヤナイ  
カト云フヤウナ非難モアリマス、是ガ學說  
上色ニ重要度即チ「ウエイ」ヲ加味シマシ  
タル物價指數ト云フモノヲ出スト云フコト  
ハ、専門ノ議論ハ色ミアルヤウデス、先年  
只今ノ牧野内大臣ガ農商務大臣デ居ラレマ  
シタ時ニ、獨逸ノ經濟學者ノ「ヴェンツピ」  
氏ヲシテ米ノコトヲ調べサセラレタコトガ  
ゴザイマス、其際ニ同氏ノ推獎ニ依ッテ私モ  
此物價指數ニ付テ獨逸ノ「ツツケルカンド  
ル」ト云フ人ナドノ說ヲ譯サセラレタコト  
ガゴザイマスガ、其人ノ說ナドモ「ウエイ  
ト」ヲ附ケテヤラナクチャイカヌト云フ議  
論ガ學說トシテ非常ニ主張サレテ居、タノ  
ヲ記憶シテ居リマスガ、サウ云フ風ニ學說  
ハ色ミアルヤウデアリマス、又試ミニヤッテ  
居ル人モ色ミアルヤウデアリマスガ、併シ  
今日一般ニ行ハレテ居ル物價指數トシテハ、  
ドウモ如何ニシテ此重要度ヲ附ケルヤト云  
フコトハ非常ニ困難デアル、日本デ物價指  
數ヲアルノニ商品トシテノ大キサヲ重要度  
ニ入レヤウト云フコトニナレバ、是ハドウ

モ殆ド米ト綿絲關係品ト云ッタヤウナモノ  
デ殆ド全部ガ覆ハレテシマフト云フヤウナ  
コトニナッテシマフノデアリマスカラ、ドウ  
モ餘程ドウシテ「ウエイ」ヲ附ケルカト云フ  
コトハ實際上非常ニ困難ナコトドラウト思  
ヒマス、又各國ノ實際上カラ見テモ、品種  
ヲ澤山ニスルト云フコトハ、隨分澤山ノ所  
モアルヤウデアリマスガ、何レモ重要度  
ハ附ケズニヤッテ居ルモノヲ矢張り使ッテ居  
テ、差支ヘナクヤッテ居ルヤウニ思フノデ  
アリマス、故ニ學說上ハ不完全ダトカ云フ  
ヤウナ議論モ成リ立チマスケレドモ、先ヅ  
今日ノ我國ノ經濟界ニ於テハ、日本銀行ノ  
物價指數ヲ採リ、而シテ其總平均ヲ採ッテ、  
物價ガ上ガッタトカ下ガッタトカ云フコトヲ  
言テ居ル習ハシデアリ、而シテソレハ差支  
ヘナイコトデアルト考ヘテ居ルノデアリ  
マス、併シソコニ於テ若シ米ト云フモノノ  
或ル程度ノ重要サト云フモノヲ考ヘルコト  
ガ出來タナラバ、ソレヲ加味スルト云フコ  
トハ、ヨリ適當ナコトデハナイカト云フ議  
論ガ出マシタノガ、此說明ニアリマスル物價  
指數ニ米價ノ趨勢ヲ加味スル案ト云フモノ  
トシテ現ハレテ參ッタノデアリマス、此點ガ  
即チ今回ノ提案ノ改正案ニ、米價指數ノ物  
價指數ニ對スル割合ノ趨勢ヲ加味シテ算出

シタル價格ト、斯ウナッテ出マシタノデアリ  
マス、ソコデ所謂指數ナルモノハ或ル一定  
ノ年ヲ根據ニ置キマシテ、ソレヲ百トシテ、  
其根據ノ一定ノ月ノ百ト云フモノニ對シ  
テ、其後ノ物價ガ如何バカリ上ガッタカ如何  
バカリ下ガッタカト云フ騰落ノ「パーセン  
ト」ヲ示スモノガ即チ物價指數デアルト考  
ヘテ居リマスガ、申上ゲマシタヤウニ日本  
銀行ガ一番古クテ、三十三年ノ十月ヲ百ト  
シテ、各種ノ物價指數ヲヤッテ居ル、米價ノ  
指數モ是デ示シテ居ル、斯ウ云フ譯デアリ  
マス、米價率ト申シマスルノハ、米價指數  
ノ一般物價指數ニ對スル割合デアリマス、  
即チ一般物價指數ヲ以テ米價指數ヲ割ッテ  
モノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申セバ一般  
物價指數ガ一デアル場合ニ米價指數ハ何程  
デアルカト云フコトヲ示シタモノガ即チ米  
價率ト云フコトニ相成ルノデアリマス、此  
一般物價指數ヲ一トシテ見レバ米價指數ガ  
幾ツニナルカト云フ米價率ナルモノハ、物  
價ト米價トノ關係ヲ長年ニ互ッテ比較ラス  
際ニハ極メテ便宜ナ適當ナモノデアルト  
考ヘルノデアリマス、一々ノ物價ト米價ト  
ヲ現實ニ突キ較ベテ、五十何種類ト云フモ  
ノヲ一々突キ較ベルト云フコトハ到底出來  
ルコトデナイ、ソレヲ一般物價指數平均ト

云フモノト、米價指數トノ割合ヲ以テズット  
眺メテ見マスルナラバ、極メテ簡易ニ比較  
ガ出來ルノデアリマス、今、日本銀行ノ調  
査ノ指數ニ依リマシテ、三十三年十一月以  
降ノ各月ノ一般物價指數及米價指數ヲ用ヒ  
マシテ、米價率ノ算出ヲ致シマシタ、  
割合ヲ算出ヲ致シマシタ、ソレヲ各月  
ニ出シタモノヲ更ニ各米穀年度、米穀  
年度ト申シマスノハ前年ノ十一月カラ  
其年ノ十月ニ終リマスル、主トシテ新米  
ヲ消費イタス期間ヲ申スノデアリマス、  
其各米穀年度別ニ以上申上ゲマシタ各月ニ  
付テ出シタ米價率ト云フモノヲ平均ヲ致シ  
マシタモノガ御手許ニ配ッテアリマスル「率  
勢米價」ノ説明「トシテ、小サナ「パンフレ  
ット」ヲ差上ゲテ居リマスガ、ソレノ第二表  
ニ出テ居リマスル三十四年度以降ノ米價率  
ト云フコトガ書イテゴザイマシテ、ソレヲ  
ズット一・〇六七カラ始マリマシテ、ズット五  
年度迄續イテ居リマスル欄ヲ御覽ヲ願ヒタ  
イ、ソコニ出テ居ルノデアリマス、即チ米  
價率トシテ示シテアリマスル數字ダケ米價  
指數ガ一般物價指數ヨリモ高クアリ、若ク  
ハ低クアッタノデアリマス、デ此間ニ於キマ  
シテ、約三十年ノ間ニ於キマシテ、米價指  
數ガ物價指數ニ比シマシテ高クアリマシタ

コトガ二十三回デアリマシテ、低クアリマシタコトガ七回デアッタノデアリマス、其割高デアッタノガドノ位割高デアツカ、割安デアッタノガドノ位割安デアツカト云フコトハ、具體的ノ米價率ノ數字ガソコデ示シテ居ルト云フ譯デアリマス、大體之ヲ通覽イタシマスト云フト、米價指數ノ方ガ物價指數ヨリモ多クノ年ニ於テ割高デアツカノデアリマス、是ガ即チ米價率デゴザイマスガ、此米價率ノ趨勢値ト云フコトヲ次ニ申上デテ見タイト存ジマス、米價率ノ趨勢値ト云フコトヲ一概ニ申上ゲマスルト云フト、大體ニ於テ米價ト云フモノハ一般物價ヨリモ幾分力高イ所デズト長年續イテ來テ居ル一ツノ傾向ガアル、其傾向ハドノ位ノ上向キノ傾向デアルカト云フ意味ガ、俗ニサウ云フ意味ガ米價率ノ趨勢値ト、斯ウ御了解下サツテ宜カラウト思ヒマス、ソコデ米價ハ物價共通ノ原因ト米ノ獨特ノ原因トカラ變動ヲ致スモノト考ヘマスノデアリマシタガ、先キニ申上ゲマシタヤウニ、米價率ハ米價指數ヲ一般物價指數デ以テ割ツタモノデゴザイマスルガ故ニ、ソコデ其一般物價ト共通ノ原因ハ先ヅ一應ニ於テ取去ツテ、主トシテ米獨特ノ原因カラ動ク米價ノ變動ガ長年ニ於テドウ云フ風ニナツテ行クカト

云フコトガ、概略現ハレテ居ルモノデアルト申スコトガ出來ヤウト思ヒマス、此米價率ガ適當ナル所ニアリマシタラバ、其時ノ米價ハ先ヅ他ノ物ト調和ヲ得タ適當ナモノト云フコトガ出來マセウシ、反對ニ米價率ガ適當ナ所デナイ場合ニハ、其時ノ米價ハ何等カ特別ノ事情デ以テ不調和ナ所ニアルモノト云フコトガ出來ヤウト考ヘルノデアリマス、米價ガ過去ニ於キマシテ永續的ニ極メテ不適當ナ亂雜ナモノデアツタト云フコトデ、採ルニ足ラスモノデアルト云フコトニナレバ、是ハ別論デアリマスルケレドモ、米價率ガ其時々々ノ特殊ノ原因ニ依ツテ、或時ニハ稍、高過ギ、或時ニハ稍、低過ギタト云フコトハアツテモ、長年ニ互ツテ觀察ヲ致シマスルナラバ、大體ニ於テ其行クベキ道ヲ辿ツテ、適當ナ所ニ落着イテ來テ居ルモノト云フコトガ言得ルト思フノデアリマス、ソコデ此米價率ノ變動ヲ長年ニ互ツテ觀察ヲ致シマスルト云フト、時ニ依ツテ移動ハゴザリマスルガ、大體年ヲ經ルト共ニ、僅カヅツデハアリマスルガ、高クナルト云フ傾向ヲ見ルノデアリマス、デアリマスルカラシテ、我々ハ此米價率ノ適當ナ値ニ付キマシテハ、算出平均的ニ動カナイ値ヲ以テ見ルノガ適當ダト云フ風ニハ考ヘラレナ

イノデアリマシテ、時ト共ニ多少ツツ上向キマスルト云フヤウナ、傾向的ト申シマスカ、趨勢的ト申シマスカ、ト云フ變化ガアルト、斯ウ考ヘルノガ適當デアラウト思フノデアリマス、デ次ニ斯ノ如キ適當ナル米價率ノ傾向ヲドウシテ算出スルカト云フコトニナルト、茲ニ初中終問題ニナリマス、衆議院デハ問題ニナリマシタガ、是ノ算出ノ方法ハ一番今日ノ數學上間違ノ少イ穩當ナ趨勢ヲ算出スル方法ト致シマシテハ、最小二乘法ト云フ算法ヲ用キマシタノガ適當デアルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、之ヲ此趨勢ヲ直線的ト見ルカ曲線的ト見ルカト云フヤウナ議論ハ、專門ノ議論トシテハ色ニゴザイマスガ、是ハ專門家ニ於テ、斯ウ云フモノガ直線的ノ傾向デアアル、斯ウ考ヘテサウシテ最小二乘法ノ方法ヲ以テ出スト云フノガ一番良イヤリ方デアルト、斯ウ見テ居ルノデアリマス、故ニ其方法ヲ用キマシテ出シマシタモノガ、即チ米價率ノ趨勢値ト致シマシテ第三表ノ下ノ欄ニ掲ゲデアリマスル數字ガソレナノデアリマス、デ米價率ハ其性質上能ク考ヘテ見マスト云フト、我國ニ於ケル人口ノ増加ト云フコトガ或ル種ノ幾何級數的ニ常ニ増殖ヲ致シテ居ルト云フ今マデノ大キナ勢ヒト云

フモノハ、茲ニ否定スベカラザル事實ガアル、而シテ又米ト云フモノニ付キマシテハ外ノ商品ト違ヒマシテ、外ノ商品ト申シテハ惡イカモ知レマセヌガ、工業生産物ト違ヒマシテドシノ生産費ヲ低下セシメテ大量生産ヲスルト云フ譯ニ參ラナイ事情ガアルノデアリマス、尙ホ内地米ニ對シマシテハ日本國民ノ特殊ノ嗜好ト云フモノガ非常ニ執著性ヲ持ツテ居ルト云フヤウナ事情モアルノデアリマス、ソレ等ノ事情カラ致シマシテ此内地米ノ價格ト云フモノハ時ニ依ツテ色ニナ理由カラ多少ノ變動ハ始終ゴザイマス、偶發的事情デ以テ短期ノ變動ヲスルト云フコトモゴザイマス、又季節ノ變動即チ出廻期ガ安ク、端境期ニハ高クナルト云フヤウナ事情モ、色ニ變動ノ事情ハゴザイマスガ、サウ云フ短期、長期ノ變動ヲ取去ツテ考ヘマスト云フト、米自身ト云フモノノ眞ノ値打ト云フモノハドウシテモデリデリトデアリマスガ上ツテ行クト云フ傾向ガアルノデアリマシテ、是ハ人口ノ狀況及米生産ノ事情ヲ御考ヘ下サルト云フト、其大キナ大勢ト云フモノニ付テ否認スルト云フコトハ出來ヌノデアリマス、ソレヲ算出シマシタノガ今ノ米價率ノ趨勢値デアリマス、ソレデ茲デ只今申上ゲマシタヤウナ

算法ヲ用ヒマシテ出シマシタル米價率ノ趨勢  
値ト云フモノガ出マシタモノヲ用ヒマシ  
テ、サウシテ之ヲ日本銀行物價調査ノ初メノ  
基礎デアリマスル明治三十三年十月ノ米價  
ニ依ッテ米一石ノ、玄米一石ノ價格ニ換算ヲ  
致シマシタルデアリマス、サウ致シマス  
云フト、ソコニ米價率ノ趨勢値ニ依ッテ算出  
イタシマシタル米價、即チ率勢米價ト云フ  
モノガ出ルノデアリマシテ、第一表ノ下ノ  
欄ニ掲ゲテ置キマシタハ指數デハゴザイ  
マセヌ、價格デゴザイマスルガ、之ガ即チ  
略稱イタシマシタル率勢米價ト稱シマス算出  
法ヲ用ヒマシタル米價ニ相成ッテ居ルノデ  
アリマス、是ハ即チ從來ノ米價ノ趨勢カラ  
致シマシテ算出イタシマシタル一ツノ測定ヲ  
致シマシタル米價デアリマス、從來ノ傾向  
カラ申セバ茲ニ米價ガアルベキコトニ相成  
ルト云フ米價デアリマス、之ヲ中心ト致シ  
マシテ基準ヲ、最高最低ノ基準ヲ定メタラ  
宜イデヤナイカ、斯ウ云フコトニナッテ來  
ルノデアリマス、ソレガ第一諸問、答申ノ  
物價指數ニ米價ノ趨勢ヲ加味スル案ト云フ  
モノニ當ル譯デアリマス、農林省ハ其後第  
一答申ヲ得マシタル結果色々考慮ヲ致シ、研  
究ヲ致シタル結果此ヤリ方ガ一ツノ基準決定  
ノ基礎ト致シマシテ適當ナモノデアラウト

考ヘマシタガ爲ニ、茲ニ基礎ノ一ツト致シ  
マシテ採用ヲ致シマシタル譯デアリマス、而  
シテ之ヲ以テ最高最低ノ基準ヲ定メルヤリ  
方ト致シマシテハ、率勢米價ヲ中心ト致シ  
マシテ其上二割、下二割ノ點ニ價格ヲ押ヘ  
マシテ、上二割ヲ越エタ場合ニハ米穀法ノ  
賣出動ニ出ル時機デアアル、下二割ニ下ッタ場  
合ニハ米穀法ノ買出動ニ出得ベキ時機デア  
ル、其間ト云フモノハ即チ率勢米價ヲ中心  
ト致シマシテ、上下合セテ四割ノ間ト云フ  
モノハ是ハ米穀ノ取引ニ於テ自由ニ放任ヲ  
シテ差支ナイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマ  
ス、サウ云フ立テ方ガ一ツノ立テ方デア  
ルト考ヘタ譯デアリマス、率勢米價ヲ中心  
ト致シマシテ上二割、下二割ト云フコトヲド  
ウシテソレヲ決メタルデアアルカト云フコト  
ニ相成リマス、ソレハ此過去ノ三十年間  
ノ米價ノ動キヲ検査ヲ致シテ見マスルト云  
フト、一年ノ内ノ總平均米價ノ、平均値段ヲ  
中心ト致シマシテ最高ノ米價ガ幾ラデア  
タカ、最低ノ米價ガ幾ラデアッタカト云フ  
コトヲ調べマス、ソレヲ三十年間ノ平均イ  
タシテ見マスルト云フト、高低共ニ一割ハ  
分ト云フコトニナルノデアリマス、即一年  
内ニ於ケル米價ノ動キト云フモノハ年内平  
均半價ニ對シテ上モ下モ平均ニ於テ一割ハ

分ハ動イテ居、タ、斯ウ云フコトニナル、ソ  
レ以上ノ動キガアレバソレハ平均カラ見マ  
シテ異常ナル動キデアッタ、斯ウ考ヘラレル  
ノデアリマス、ソコデ一割八分ト云フコト  
ヲ二割ト致シマシテ、二割ノ範圍内ニ於テ  
ハ動クコトハ是ハ長年ノ平均例年其位ナ  
所ハ致シ方ガナイト考ヘルノデアリマス、  
ソレ以上又ハ以下ニ出タトキハ異常ナル動キ  
デアアル故ニ米穀法ヲ出動セシメテ差支ナイ  
時デアルト考ヘテ居リマス、米穀法ノ出動  
ノ基準ヲ決定スルニ生産費、生計費ノ二本  
ノモノヲ行クト云フ案ハソレ自身上下ト  
ヲ直接ニ決メル基礎トシテ出サレテ居ルノ  
デアリマスルケレドモ、物價指數ニ基ク案  
トカ、ソレニ多少ノ米ノ重要度ヲ加味シマ  
シタル率勢米價案デアリマスルカ云フモノ  
ハ一本ノ中值ヲ出シテ居ルノデアリマスル  
カラ、之ニ關シテ上下相當ノ値幅ヲ認メマ  
セヌケレバ最高最低ノ出動ノ基準ニナラヌ  
ノデアリマス、其場合定ムル値幅ガ狭ケレ  
バ狹イ程實行上困難デアリマス、極端ニ申  
シマスルナラバ一ツノ率勢米價其モノデ以  
テ米ノ値段ヲ公定シテシマフト云フコトニ  
ナリマス、是ハ迫モ實際ニ當嵌メテ實行  
シテ行クコトハ出來ヌコトデアリマス、上  
下ニ値幅ヲ認メテモソレガ極メテ狭イ場合

ニハソレヲ維持シテ行クコトハ極メテ困難  
デ無理ニ維持スルニハ非常ナ巨額ノ金ヲ費  
サナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニナリマ  
ス、併ナガラ其幅ガ餘リ廣キニ失シテシマ  
ウト云フコトハ、是ハ基準ヲ定メ、米穀法  
ヲ發動スルト云フ時機ヲ殆ド見ナクナルノ  
デアリマシテ、基準ヲ定メタ目的ト云フコ  
トニ全然又合ハヌコトニナルノデアリマス  
カラ、此幅ヲ如何ニ定メルカト云フコトハ、  
サウ云フ各方面ノコトカラ相當講究ヲ致シ  
テ、適當ナル程度ニ於テ之ヲ定メルコトガ  
理論上ニ於テモ極メテ重要デアリ、同時ニ  
實行ヲ致ス上ニ於テ餘程考慮ヲ要スル點ト  
思フノデアリマス、此點カラ考ヘマシタル  
穀法ハ異常時ニ出動スルノデアアル、又異常  
ノ時ニ非ズンバ出動セザルモノデアアル、斯  
ウ云フ觀念カラ致シマシテ、以上申シマシ  
ヤウニ三十年ノ間ノ各年ノ平均米價ニ對シ  
テ、最高最低ノ米價ガ何割何分ヲ示シテ居  
ルカト云フ調べヲ致シマシテ、一割八分ト  
云フコトヲ得マシタルデアリマス、ソレヲ  
「ラウンド・ナンバー」ト致シマシテ、二割ト  
考ヘテ茲ニ上下二割ノ幅ヲ認ム、斯ウ云  
フ案ヲ出シタル譯デアリマス、是ガ大體ニ於  
テ所謂率勢米價ヲ基準ト致シマスルコト云フ  
トノ御説明デゴザイマス、生産費生計費ノ

方ハ又別ニ御質問ガゴザイマシタ時ニ申上  
ゲタイト存ジマスガ、一應率勢米價ノ方ダ  
ケ大體御説明申上ゲマス、算法デアリマス  
トカ、其外尙ホ細カイ點ニ付テ御質疑ガゴ  
ザイマシタナラバ、御質問ニ應ジマシテ私  
カラ、若クハ荷見政府委員カラ、尙ホ分リ  
マス限リ申上ゲテ置キタイト存ジマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) チョット速記  
ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○委員長(伯爵堀田正恒君) 速記ヲ始メ  
テ……ソレヂヤ今日ハ是デ散會イタシマ  
ス

午前十一時五十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵堀田 正恒君  
副委員長 橋本圭三郎君  
委員

侯爵松平 康昌君  
子爵松平 直平君  
子爵片桐 貞央君  
子爵土岐 章君  
木場 貞長君  
男爵長松 篤渠君  
上山滿之進君  
男爵今枝 直規君

男爵足立 豐君

男爵三須 精一君

湯川 寛吉君

本山 彦一君

田村 新吉君

絲原武太郎君

本間千代吉君

國務大臣

農林大臣 町田 忠治君

政府委員

農林省農務局長 石黒 忠篤君

農林書記官 荷見 安君

拓務省殖産局長 殖田 俊吉君